

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 2月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	1073100339
法人名	社会福祉法人同仁会
事業所名	グループホーム愛
所在地	邑楽郡大泉町西小泉5-9-1 (電話) 0276-20-1203

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年1月26日

【情報提供票より】(平成21年12月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 9人 非常勤 4人 常勤換算	12.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	5階建ての	4階 ~	4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費300円・寝具代(希望者)30円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
又は、1日1,300円				

(4) 利用者の概要(12月22日現在)

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名
要介護1	1名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.9歳	最低	66歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人穂栄会みづほクリニック・総合太田病院・石堂歯科クリニック
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

西小泉駅近くの「いずみ緑道・志部公園」に隣接して、鉄骨建り5階建ての4階部分に2ユニットのグループホーム愛がある。建物内にはクリニック・在宅介護支援事業所・デイサービス・ショートステイ等が併設されている。ホームはさくら棟とチューリップ棟があり、相互に行き来が自由のできるため、入居者の交流や職員の協力関係にも相乗効果を発揮している。ホーム内は、居室・食堂兼居間を初め、ゆったりとしたスペースがとられ、掃除も行き届き清潔に保たれている。食堂兼居間には新聞・週刊誌等も備えられ、個人の生活を尊重している印象がある。地域交流も徐々に進み今後の活動を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価結果は職員全員に伝えられるとともに職員全員で取り組み、災害訓練への地域住民の参加を運営推進会議で区長等呼びかけるなど改善に向けて取り組んでいる。鍵をかけないケアについては、居住スペースが4階ということもあり、安全面との兼ね合いのなか、タッチ式のドアなどの試みがとられるなど検討がなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は昨年の評価結果をもとに全職員で取り組み、管理者がまとめ自己評価票に記入している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回、区長、町職員、民生委員、家族、職員のメンバーによって運営推進会議は開催されている。会議は、事業所の状況・活動サービス内容・ヒヤリハット及び事故事例などの報告や説明が主である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に苦情箱を設置し、家族等からの意見や苦情を受け入れ改善に努力している。しかし、苦情箱の利用は少なく、意見・要望等は家族が直接職員へ伝えている。意見・要望等の事柄(内容)は「申し送り簿」に記載するとともに、管理者に報告している。緊急性を要する場合は、その都度話し合い対応している。それ以外は寮母会議(月1回)で話し合われている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>「サルビア通信」を近隣の家庭に配布し、ホームの納涼祭に地域住民を招待している。山野草の展示会・育成会の餅つき大会への招待や町の福祉大会・クリーン作戦での道路清掃への参加などの地域交流が図られている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、職員全員で考えた「人権を尊重し、家庭的な雰囲気の中で、安心・安全に暮らし続けることができるよう支援します」を掲げ、さらに基本方針5項目を掲げている。	○	理念の中に、「地域生活の継続」「地域との関係性」が意識できる文言の挿入を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所に掲示され、毎朝の申し送り時に全職員で唱和している。理念をより具体的にした基本方針である人権の尊重・プライバシーの尊重・穏やかな安心で生きがいある生活等を念頭に日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「サルビア通信」を近隣の家庭に配布し、ホームの納涼祭への参加も呼びかけている。山野草の展示会・育成会の餅つき大会への招待、町の福祉大会・クリーン作戦での道路清掃への参加、ホームでの育成会参加による暮れのしめ縄づくりなど地域交流が図られている。	○	イベントの参加に留まらず、普段の生活における地域の人々とのつきあいを今以上に期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果が全職員に伝えられるとともに、改善点が話し合わせ、全職員での理念の見直しや町職員との連絡方法の改善等具体的対策に取り組んでいる。自己評価は昨年の評価を参考に職員全員で検討され、管理者がまとめ記入している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、区長・町職員・民生委員・家族のメンバーで開催されている。主に事業報告やサービス内容、事故事例報告、外部・自己評価等であり、双方向的な会議にはなっていない。	○	既存のメンバーに、行事等の企画に応じたメンバーを加えることや家族に参加を呼びかけ出席率を上げるなどして、意見交換や話し合いが活発にできることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	職員が各種書類の提出や3ヶ月に1回発行の「サルビア通信」を持参し、町担当者と馴染みの関係を築く努力をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	入居者一人ひとりの日頃の様子を記入した担当職員からの「近況報告」を、毎月の利用料請求書に同封し送付している。通常月1回平均の面会時での家族への報告等であるが、特に状況に変化のある時は、随時連絡を取っている。金銭管理は小使い帳と領収書の確認をいただいている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	玄関に苦情箱が設置されている。過去に変圧器の電磁波障害の懸念があるという意見がよせられ、外部関係者とも話し合い、家族に了解していただいた事例がある。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	離職者は少ないが、法人全体での人事異動は行われている。異動の際は入居者の生活・健康状況等を記載した書面を作成し、引継ぎをしている。新人職員にはベテラン職員が特に声かけを多くするなどして、入居者へのダメージ軽減の配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	県の認知症研修会や地域密着型サービス連絡協議会主催のレベルアップ研修会等、各種研修会に経験年数に応じて参加するとともに、法人全体の研修会参加もされている。研修結果は寮母会議・職員会議等で報告され、職員の共通認識が図られている。研修会参加は職員からの要望も採用され出張扱いとしている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	県や地域密着型サービス連絡協議会主催の研修会に参加して、情報交換や交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、利用開始前に本人や家族等から希望等を聞いて、見学に来ていただいている。デイサービス利用者の希望者には、宿泊可能かどうか体験していただくこともある。入居後は、なるべく居室でなくホールに誘うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の日々の生活状況を観察し、本人から経験談を聞いたりするなか、室内清掃・おやつづくり・しめ縄づくりなど、職員が教えてもらう機会が多い。また、近隣の神社の由来を教えていただいたり、町の文化祭に出品する作品づくりを一緒に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族等からの経歴や好みの傾向などの情報とともに、入居者からの会話や日常の観察により、本人の意向の把握に努めている。日々、本人のペースを大切にしてい、ホーム内での移動や散歩など出来るだけ本人の意向を尊重し、自由に行動していただいている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が日々の入居者を観察した日誌を作成し1ヶ月まとめ、寮母会議で検討された後、介護計画が作成されている。介護計画は、家族に説明し確認していただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則、3ヶ月ごとに寮母会議で検討され、見直しをしている。見直し以前の変化については、朝の申し送り時に報告され職員間で検討し、管理者・主任・家族等で見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族がホーム訪問時に宿泊することも可能である。本人の希望で衣服の購入・みちの駅や山野草展での買い物に、職員が同行支援をしている。希望により実家付近まで足をのばすなど、臨機応変に対応している。絵手紙や書道教室など講師を招いて実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の希望がなければ、協力医療機関としている。現在は、眼科以外は協力医療機関である。通院等は家族とともに職員も同行し、受診結果は申し送りノートに記載して職員の共通認識を図っている。往診・緊急対応は可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は特別養護老人ホーム入所の方向等家族等と協議し、あくまでも本人の状況をありのままに受け止めることを原則としている。看取りは家族等の意向を確認し、医師と相談の上で検討することとしている。本人や家族の希望で、終末期ケアと看取り(1名)を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼称は苗字を原則とし、丁寧語を基本としている。排泄や入浴の際はタオルを使用するなどして、肌の露出部分を少なくするよう努めている。排便・失禁などは本人にそれとなく声かけをして対応している。個人の記録等は、事務所のロッカーに保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の状態に応じて、声かけや会話を通して、本人の関心事を把握し支援している。本人の希望で新聞を取りじっくり紙面を読んでから行動する人、職員と一緒に清掃する人等その人に合った生活支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂兼居間にオープンキッチンがあり、食事の準備や後片付けは入居者と職員が一緒に行っている。また、同じ食事を一緒に食べながら、入居者を見守り、必要時に介助している。3時のおやつは入居者と相談と一緒にメニューを決めて調理している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は2ユニットで日がだぶらないように週3日と定めているので、本人の希望で何時でも入ることが出来る。一人で入ってもらい、本人のペースを大切にしている。時期により柚子湯なども行っている。入居者の気分・状態に応じ老人センターの浴場や日帰り温泉「安眠の湯」を利用し入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や興味の持てることを把握し、裁縫・おやつづくり・食器洗い・テーブル拭きなどの日々の役割を分担し、生きがいや気晴らしの支援を行っている。町の福祉まつりでは、何日もかけて作業を分担して一つの作品を作り上げている。また、月に1回、絵手紙・茶道・書道の教室や、行事の際の演芸ボランティアの来所などが行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣接する「いずみ緑道」「志部公園」へ、日常的に車いすの人も散歩に出かけている。桜の季節には弁当持参で花見を楽しんでいる。誕生月の入居者は親しい人を招いて外食したり、お茶やケーキを食べに外出することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解しているが、事業所が4階にあるため安全面を考慮し、玄関(入口)のドアはタッチ式である。施錠に関する家族の意見や運営推進会議メンバーの意見も安全面を優先する考えである。	○	入居者の尊厳を考慮するなか、鍵をかけないケアについて職員全員で、機会あるごとに話し合うことを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災総合訓練は消防署立会いのもと、年2回昼・夜を想定し実施するとともに、事業所独自に年2回避難訓練を行っている。避難場所の確認、避難誘導や通報などの役割をローテーションし全職員が体験している。また、近隣の人々の協力については運営推進会議のメンバーを通じて働きかけをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士によって栄養バランスの考えられた献立表が作成されている。新年会等の行事食は、入居者の希望を取り入れ栄養士と相談して、特別メニューを作っている。食事・水分(1日1ℓ)の摂取量は毎食後把握し、変化が認められると、個人の日誌に記録し申し送っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間には日が差し込み明るい環境になっている。ソファ・テレビや空気清浄機が設置され、絵手紙・カレンダーなどが飾られて、新聞・雑誌類も多く置いている。廊下・トイレ・浴室など共有スペースは広くゆとりとして居心地のいい空間作りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はフローリングの床で、ベッド、畳に布団使用とあり自由に選ぶことができる。また、本人や家族と相談の上、使い慣れた机や椅子等が持ち込まれている。壁にはご両親の写真を飾り、机の上の写真立てには家族の写真が飾られている。		